



国内原発の定期点検について

光風会 豊島 寛一 議員

**議員** 点検は安心の担保のはず、何よりも安全が基本の原発が、さまざまな点検がまかり通っていたことに非常に驚きを隠せない。点検状況をチェックすべき検査官も、これを見過ごしていたこと。私は常々、点検にはダブルチェックは当然ですが、ダブルチェックでも足りない、スクランブルチェックでも足りないと思っている。基本となる点検が手薄になっていたとしか思えない。徹底的に調査して責任の所在を明確にすべきである。老朽化が進む中で高経年化で長期運転に向けているということも、納得いかない面もございませぬし、点検間隔を延ばすところではないのではないかと。点検というところ、発電所の健康診断であって、改ざんするということは、カルテを改ざんするということになります。企業でいうと儲けがないのに儲けがあるようにした、粉飾決算する会社を信じてくださいというほうが無理だろうと思います。点検はそのありのままに提出するのが点検であるべき。

経済環境部長 検査のあり方に関

する検討を重ね、平成21年1月から原子力発電所の安全性の向上を目的として新しい検査制度を導入しております。事業者が運転中の機器の状態、監視計画や運転終了後の機器の状態を踏まえた点検の改善プロセスについて保全計画に転載することになっております。過去のトラブルや高経年化を踏まえた保全計画の策定と継続的な改善を義務付け、また運用可能な新技術を用いた運転中の検査を義務付け、その実施状況等を確認、検査するというもので原子力安全の高度化、実用化のために国の関与を強化したものでございます。これまで一律13カ月を超えないことが義務付けられておりましたが、定期検査の間隔につきましては、日常の保全活動を充実させることにより、技術情報の蓄積が図られ、点検方法や点検間隔、頻度の設定が改善されたことから、13カ月以内、18カ月以内、24カ月以内の3つの区分について科学的、合理性根拠に基づく間隔を設定することが可能となります。



女性と小児の生命を守るワクチンの公費助成と定期接種化を、問う

公明党 岡崎 悟 議員

**議員** 公明党議員団は本年2月に、子宮頸がん予防ワクチンの公費助成と定期接種化、および、小児の細菌性髄膜炎予防に有効な、ヒブワクチンと小児用肺炎球菌ワクチンの公費助成と定期接種化を求める要望書を、村上達也村長に提出しました。その後、子宮頸がん予防ワクチン、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンへの公費助成と定期接種化への取り組みについて、どのように検討されたのか、伺います。

**福祉部長** 子宮頸がん予防ワクチンの助成は、実施する方向で検討しています。また、子宮頸がんの正しい知識やワクチン接種の必要性に関する啓発も重要です。このワクチンは合計3回の接種が必要で、接種終了まで半年を要します。このことから、実施時期や実施方法、接種対象者の絞り込み、啓発方法など検討しています。また、定期接種化されていないヒブワクチンと小児用肺炎球菌ワクチンについては、国や県が統一的に対応すべきものと考えています。しかし、早期に定期接種化は困

難なため、これらの接種効果が期待できるワクチンについては、村独自に、定期接種化されるまでの間、助成を実施できればと考えています。また、予防接種は、保護者が基本的な知識を習得し、効果や副反応について十分に理解した上で納得し、接種を受けることが重要です。今後は啓発活動にも、更に力を入れていきます。

**議員** 実施する方向で検討ということで、大きく前に進みました。村長の今の思いを、伺います。  
**村長** 効果はつきりしているものを、国が何ら手をつけないでいたことと自体、残念だと思えます。村独自の判断で、国・県を誘っていくことが必要だと思えます。その観点から、岡崎議員提案の子宮頸がん予防ワクチン、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンについて、前向きに福祉部長答弁の方向でやっていきたいと思っております。

